



富永真樹先生 (言語・文学領域) インタビュー

聞き手 福嶋伸洋

——作品は宿題として読んでも
らっているんですか?

富永 いちおう前もつてお配りをして、読んできてねっていう風には言つてゐるんですけど、読んでな
くともわかるように解説します。そこで興味を持つてくれた子が後から読むつていうことをしている
かなつていう感じがあるので、授業内で扱えない作品をとにかく数打つ感じで紹介をして、何か
引っかかってくれるといいなと思っています。

——着任されて半年ですが、その前にもこちらで非常勤講師として授業を持たれてたんですね？

富永先生（以下敬称略） そうですね、短大と大学で合わせて4年ぐらい、非常勤でお世話になってました。

——共立の印象はいかがですか？

富永 本当にみなさんもすごく素敵で伸び伸びしていて、授業もしやすいですし、気持ちがいいなど思いながら、いろいろとお話をしたり授業を進めたりしています。

——授業見学会のときにちょっとお授業を覗いたんですけど、大人數でしたね。

富永 そうですね、ちょうど現代文学を中心にやっている授業だつ

学生の印象

富永真樹先生 (言語・文学領域) インタビュー

聞き手 福嶋伸洋

たので、近代文学なんかよりかはおそらく聞きやすく、みなさん来てくれます。授業で毎回感想を書いてもらうんですけど、それもすごく熱心にいろいろ考えて書いてくれるので、毎回楽しく私自身やつてました。

共父女
子大學
文藝學部報

共立女子大学文芸学部報
第148号
発行日 2026年1月19日
編集・発行 共立女子大学
文芸学部
〒101-8437
東京都千代田区
一ツ橋2-2-1
発行責任者 阿部由香子
創刊 1968年12月
題字 遠藤慎吾
第二代文芸学部長

学部報に関するご意見・ご
感想を以下のメールアドレ
スまでお寄せください。
gakubuho
@kyoritsu-wu.ac.jp

学部報は共立女子大学公
式HPの「文芸学部」の
コーナーで
もお読みに
なれます。



- 第148号 主目次
- 第1面 富永真樹先生
　　インタビュー
　　VR歌垣ゲーム
　　制作中
- 第2面 Stories
- 第3面 俳壇・歌壇
　　Geminiさんに聞く
　　講評
- 第4面 領域から
　　心象占拵

けれど、昔、文学をやろうか美術をやろうか迷って、どちらかを取つたらどちらかを捨てなきゃいけないんだと思って、すごく悩んで文学を専門にしようと思ったんですけど、進めていくうちに、いま文学絵画とか挿し絵とか装丁とか、そういう話も研究しているので、両方できちやつたっていう。なので、趣味の部分もちょっと、どちらもきたなつていう感じがします。

VR 歌垣ゲーム制作中

遠藤耕太郎

の問題であつたり、あるいは家族
の問題であつたり。

――『コンビニ人間』ですか？

富永 「コンビニ人間」は紹介だ
けして、取り上げたのが『消滅世
界』。けつこう激しい、好き嫌い
が分かれるだろうなっていう形の
お話。ディストピアもので、出産
とか恋愛とかの在り方を問い合わせ
ていく作品なので、それは嫌いな
子、苦手な子は多いだろうなと
思つたんですけど、けつこう興味
を持つてもらつて、そこから村田

取り上げてみて、それも面白か
たんですけど、そんな風にジャンル
を絞つて、鏡花の作品を紹介して
いたらしいかなと思っています。

趣味について

――ご趣味について伺つてもいい
ですか？

富永 私、絵、美術が好きなん
です。なので、美術館に行つたりす
るのですがすごく好きです。

研究のことに関わつてくるんで

ちは分かんんですけど。長篇は紹介に留めておいて、夏休み中なんかに読んでもくれる子がいたりするので、こんな話があるんだよっていう紹介はするようにはしています。

— 現代の作家の方が反応はいいですか？

富永 ずっといいですね。やはり読みやすいですし、現代の作家つて現代の問題を書くので、すごく身近な社会問題、自分たちもちょっとやもやしてたり、気になることなんかを書くっていうので、引っかかる、興味を持つてくれる学生が多いなっていう気がします。

最近やつて反応がよかつたのは、村田沙耶香さんの作品はやっぱり、現代の社会の構造で、労働

沙耶香さんの本を読んだつていう話があつたりしました。

あとは川上未映子さんの女性の身体の話とかは、引き付けられっこなつていう印象を受けました。

— ご専門は泉鏡花ですよね？

富永 そつなんです。幻想文学の中でも泉鏡花に興味を持ってやっていて、本当は授業でもやりたいんですけど、なんせ近代文学の中でも非常に読みづらい作品を書く作家なので、どうしようかなと困っていますが、ただやっぱり書いてることはすごく面白いです。以前変身というテーマで、動物から人間になつたり、人間が神様になつたり



——どういふ画家がお好きなんですか？

富永 わりと何でも好きなんですが、日本の画家だと、泉鏡花の挿し絵を描いている小村雪岱という画家がいて、この冬、大阪で大きい展覧会があるんですけど、その人の絵がすごく好きです。鈴木春信(すずきしんしん)つぱい、昭和の春信つていうふうに言われた作家です。

海外の画家だと、ムンクが好きなんですよ。旅行に行くのも好きなので、どうしてもムンクの美術館に行くのが夢で、去年ようやくオスロのムンク美術館に行けて、そこでそういう、この美術館に、行つてみたいなつていうので旅行したりするのも好きです。

知つてゐるからだ。実際にヒロとキーボーが恋人と いうわけでもないし、上司と部下が付き合つてゐるわけでもない。カラオケとう非日常の空間で、男女が虚構の恋愛関係を作つて、その上で歌駆け引きを楽しんでいたのである。男が最初「大目に見ろよ」と言つて車な態度で女を説得しようとしたところ、女は「気に入らないのよ」と切り返す。そうすると男は「目に見てよ」と下手に出て女の^下手^{したて}を引こうとする。女は仕方ない

昭和の終わりごろだろうか、当時大学生の私よりも少し上の世の中の会社員たちは、よくカラオケでこんなデュエットを歌っていた。

男・3年目の浮気くらい大目
見ろよ／女・開き直るその態度
気に入らないのよ

男・3年目の浮気くらい大目
見てよ／女・両手をついて謝
たつて許してあげない

ヒロシ＆キーボーの「3年目浮気」である。上司と部下が男の役になつて掛け合うのだが、へだつたらいくつものハラスメントできっと捕まるに違いない。こんなことが許されていたのは、この恋愛が虚構だということをみんな

る。女はいろんな答え方をするのだ
が、「万葉集」には、
やんわりと拒絶す
る歌もあれば、か
なり大きさに断る
歌もある。

A composite image. On the left, a classroom scene shows several students sitting around a long table, focused on their work. On the right, a colorful illustration depicts a person standing next to a large, stylized bird-shaped structure, possibly a playground equipment or a creative representation of a bird.



Stories

線香花火の火が落ちるまで

ダンボの耳

いつだって一緒に過ごしてきた、幼馴染三人組。男一人と女一人で、傍から見たら不思議な組み合わせだつて言われるのもわかる。恋でも友情でも家族でもない、しつくりくる言葉が見当たらない、そんな関係。小さなころから一緒にいて、何かあつたらすぐLINEしてお互いにからかいあって、面白い動画があつたら共にして爆笑する。なんともないことだけ、私はそこに特別感を感じて、当たり前におじいちゃんおばあちゃんになつても変わらない関係だつて確信してた。LINEは、いつもとは違つた。「花火しようよ!」花火なんて小学校に入ったから、三人で向かい合つて花火だけ。三人で向かい合つて花火の光だけでは見えなかつた。が緊張した面持ちで目を通わせあつていたことなど、暗闇に光る楽しい時間だつた。私は二人が同時に口を開く。「あのさ、俺たち／私たち付き合うことになつた」周囲は車が多く、道を歩く人もいたはずなのに、やけにクリアに聞こえた。

「え?」つい口からこぼれた言葉とともに、線香花火は落ちていった。きっと私の表情は見えていたんだろう。私が失恋したとか嫉妬したとかそういう話ではない。わからない感情が私を襲つた。新しい線香花火をもつて、そして必死に笑顔を取り繕つて戻る。

「全然気づかなかつたよ、よかつたじゃん」

私の複雑な感情をよそに、二人は幸せそうだ。でも関係が崩れてしまえば、一人が私を含めてくれ

たつて、もう元に戻ることはない。

鼓膜から胸の中へ転がり落ちて、

「早く早く」とせつつくよう踊り回る。せかせかと膝上のビニー

ル袋の中から目的の物を取り出

す。缶のプルトップに人差し指を

さりげなく視線を投げると老婦人が老紳士を楽しげに叱責してい

る。夫婦だろう。老紳士の手にも

缶酒。夫は妻にゆるりとした笑顔を向けた。

ふと、斜め後ろの席から声がした。

「そんなに飲んで景色はちゃんと見てるの?」

さりげなく視線を投げると老婦人が老紳士を楽しげに叱責してい

る。夫婦だろう。老紳士の手にも

缶酒。夫は妻にゆるりとした笑顔を向けた。

ふと、斜め後ろの席から声がした。

</

